

山深い味わい

信越国境 佐武流山 山スキー

今年は雪は十分。そしてここ数日大雪はなく、当日も荒天ではない。厳冬期としては条件に恵まれた山旅が期待できそうだった。

【日程】

2017年2月26日(日)

【メンバー】矢野

【地研図】

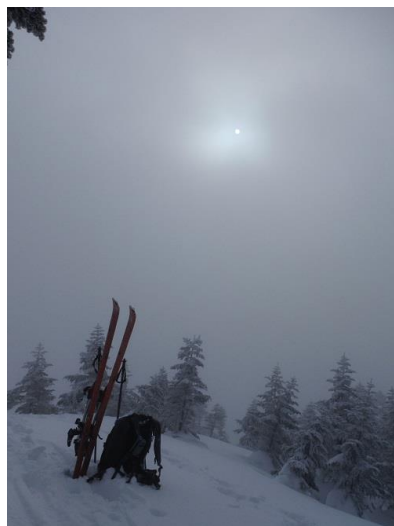
佐武流山

【記】矢野

2月26日(日)：晴-曇り-晴

林道の除雪スペースに車を止め、明日に備えてすぐに眠りにつくが、あっという間に目覚ましになる。見上げれば星が瞬く中、2:00に出発。雪が硬いおかげで長い林道もすいすい進み、順調に檜俣川渡渉点へ。この時点で星は雲に隠れ、真っ暗だ。昨年は寡雪のため、渡渉点の雪は繋がってなかったが、今回はしっかり雪が繋がっていた。ここからすぐにクトーをつけ、1574mまでカリカリの急登を登る。1574mからは、期待を裏切らず木の根がしっかり行く手を阻む。仕方なくスキーを担ぎアイゼンに履き替えるが、雪面は硬くてもズボズボ抜け、その下の木の根が足を絡めとる。予想していたとは言え、やはりげんなりだ。ようやく1870mワルサ峰に到着して前を向けば、まだまだ気を抜けない稜線が続いている。主稜線までは、スキーを履いての階段登高が求められる畝のような尾根に加え、アップダウンが続き、巻こうとするが決して疎林ではなく、一筋縄ではいかない。色々考えながら、やっとのことでもならかな主稜線に到着すると、時折太陽が顔を見せるようになってきた。これは山頂で快晴だ、日頃の行いが良いのだ！と気持ちも軽く、足取りも軽く佐武流山へ一直線。そして9:30ついに山頂到着！難儀な登りとは一転して広く穏やかな佐武流山の山頂。もちろん誰もいないし標識も何もない。残念ながら山頂で快晴にはならなかったので、眺望もない。でも来て良かった。

山頂からスキーで一気に渡渉点まで行きたいところだが、そうは簡単にいかない。いくつかの登り返しとアイゼン歩行を交えて1574mまで地道に進まなくてははいけない。ワルサ峰のあたりから雲は晴れ、苗場に向かう主稜線がきれいに見渡せたが、振り向いても佐武流山はその姿を明かさない。うまいこと隠れてしまうのだ。それでも晴天の中、周囲の景色を楽しみながら行く、渡渉点までの稜線歩きと滑りは、間違いなく下山できるという安心感も相まって、心地良いものだった。渡渉点で行動食を平らげ、気温があがってビシャビシャになったシールを張り直して林道まで登り返し、月夜立岩からの全層雪崩におびえつつ、林道をダッシュで切明温泉まで滑り込み、ようやく長い山行を終えた。



佐武流山山頂

【行程】

2/26(日) 林道入口(2:00)～檜俣川渡渉点(4:00)～佐武流山(9:30/10:00)～檜俣川渡渉点(12:30)～林道入口(14:00)